

金沢市

**専光寺養魚場遺跡**

2006

石川県教育委員会  
(財)石川県埋蔵文化財センター

せんこうじ ようぎょじょう  
専光寺養魚場遺跡

2006

石川県教育委員会  
(財)石川県埋蔵文化財センター

## 例　　言

- 1 本書は専光寺養魚場遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は金沢市専光寺町地内である。
- 3 調査原因は県単道路改良事業主要地方道松任宇ノ気線であり、同事業を所管する石川県土木部道路建設課が、石川県教育委員会に発掘調査を依頼したものである。
- 4 調査は財團法人石川県埋蔵文化財センターが石川県教育委員会から委託を受けて、平成15（2003）年度および平成17（2005）年度に実施した。業務内容は現地調査、出土品整理、報告書刊行である。
- 5 調査に係る費用は、石川県土木部道路建設課が負担した。
- 6 現地調査は平成15年度に実施した。期間・面積・担当課・担当者は下記のとおりである。

期　間 平成15年11月14日～同年12月3日

面　積 170m<sup>2</sup>

担当課 調査部調査第3課

担当者 岡本恭一（専門員）、澤辺利明（課主査）

- 7 出土品整理は平成17年度に実施し、企画部整理課が担当した。

- 8 報告書刊行は平成17年度に実施し、調査部調査第3課が担当した。報告書の執筆・編集は澤辺（調査専門員）が行った。

- 9 調査には下記の機関・個人の協力を得た。

石川県土木部道路整備課、県央土木総合事務所（旧金沢土木事務所）、金沢市教育委員会、楠正勝、増山仁

- 10 調査に関する記録と出土品は石川県埋蔵文化財センターで保管している。

- 11 本書の凡例は下記のとおりである。

(1) 方位は磁北である。

(2) 水平基準は海拔高であり、T. P.（東京湾平均海面標高）による。

(3) 出土遺物番号は挿図と写真で対応する。

## 目 次

第1章 調査の経緯と経過 .....	1
第2章 位置と環境 .....	3
第3章 調査の成果 .....	6
第1節 概 要 .....	6
第2節 検出遺構・遺物 .....	6
第3節 ま と め .....	13

## 挿図目次

第1図 調査区位置図(S=1/10,000) .....	1
第2図 工事計画と調査区の位置(S=1/1,000) .....	2
第3図 遺跡の位置 .....	3
第4図 周辺の遺跡(S=1/25,000) .....	4
第5図 調査区全体図(S=1/100) .....	6
第6図 1区遺構平・断面図(S=1/40) .....	8
第7図 1区南半～2区北半遺構平・断面図(S=1/40) .....	9
第8図 2区北半～3区遺構平・断面図(S=1/40) .....	10
第9図 出土遺物1(ピット、SK) .....	11
第10図 出土遺物2(SK、SD) .....	12
第11図 出土遺物3(分布調査時出土) .....	13

## 表 目 次

第1表 周辺の遺跡一覧表 .....	5	第2表 出土遺物観察表 .....	14
--------------------	---	-------------------	----

## 図版目次

図版1上左 遺跡遠景(南から)	図版3上左 3区完掘状況(南から)
上右 遺跡遠景(南東から)	上右 S K01・02、S D01完掘状況(東から)
中左 調査着手前の状況(南西から)	中上左 S K01断面(東から)
中右 遺構検出状況(南北から)	中上右 S K03完掘状況(西から)
下 完掘状況(全景、南北から)	中下左 S K03断面(西から)
図版2上 1区完掘状況(南北から)	中下右 S D04完掘状況(南東から)
中左 P 5完掘状況(南北から)	下左 S D04断面(南東から)
中右 P 7柱根(西から)	下右 S D05完掘状況(南東から)
下左 P 8柱根(北西から)	図版4 出土遺物
下右 P 14柱根(南東から)	

# 第1章 調査の経緯と経過

**1. 調査にいたる経緯** 調査原因である県土木部道路建設課所管の県単道路改良事業主要地方道松任宇ノ気線については、国道8号をはじめとする金沢市周辺の幹線道路の慢性的渋滞の解消、あるいは沿線市町や加賀・能登を結ぶ大動脈として建設が進められている金沢外環状道路整備の一環として実施されてきたものである。発掘調査区域は、松任宇ノ気線専光寺交差点から外環状道路への取り付け区間整備に係り計画された交差点南西側の新設歩道部分にある。

石川県教育委員会文化財課では毎年、関係部局に対し次年度実施予定の事業内容の照会を行い、各事業について埋蔵文化財の保護が図られるよう調整を行っているが、その上で上記道路改良事業計画が知られることとなり、文化財課では道路建設課と協議しながら、順次、区域内での分布調査を進めていった。本遺跡に関しては平成3年、隣接地において民間開発に伴い金沢市教育委員会による発掘調査が実施されている（金沢市教育委員会 1992『金沢市専光寺養魚場遺跡』）ことから、事業区域にまで遺跡の広がることが十分予想されたものであり、平成11年3月、平成14年10月および平成15年10月の3回に分けて実施された分布調査により遺跡の確認とその分布範囲決定が行われている。

確認された遺跡の取り扱いについては文化財課と道路建設課の協議の結果、計画変更が不可なこと



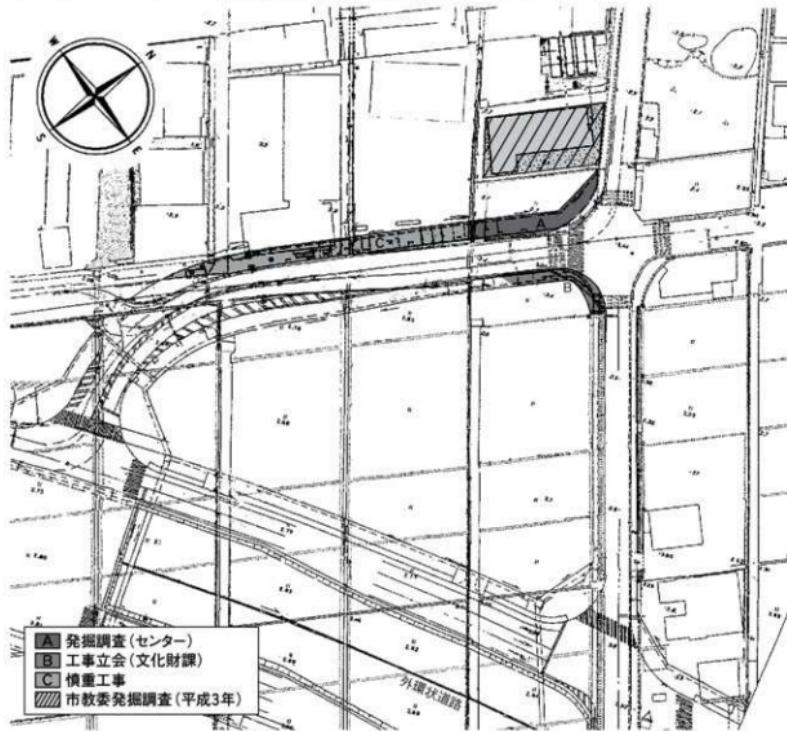
第1図 調査区位置図 (S= 1/10,000)

から事前の発掘調査等による記録保存とすることとなり、そのうち、狭小な部分については文化財課職員による工事立ち会い対応とし、幅を広める交差点南西部分については事前の発掘調査を行うこととなった。また、歩道部分にあたり遺跡まで掘削の及ばない範囲は慎重工事対応とした（第2図）。

**2. 現地調査** 道路建設課から依頼を受けた文化財課（石川県）からの委託事業として、平成15年度に財團法人石川県埋蔵文化財センターが実施し、調査部調査第3課岡本恭一・澤辺利明が現地調査を担当した。

平成15年11月14日に県央土木総合事務所、文化財課、埋蔵文化財センターとの間で現地協議が行われ、調査範囲・ユニットハウス設置場所・駐車場所等を確認した。11月19日に重機による表土除去に着手した。一帯は過去の耕地整理等により大幅な削平を受けており包含層はほとんど確認されず、耕土直下で遺構が検出された。同日、遺構検出を終了し、27日にかけて調査員2名に作業員2名を加え遺構掘削を行った。11月28日～12月1日に図面作成、12月3日に埋め戻しを行い現地作業を完了した。

**3. 出土品整理・報告書刊行** 道路建設課から依頼を受けた文化財課（石川県）からの委託事業として、平成17年度に財團法人石川県埋蔵文化財センターが実施した。出土品整理は企画部整理課が担当し5月2日～5月20日に実施、報告書刊行は調査部調査第3課が担当した。



第2図 工事計画と調査区の位置 (S = 1/1,000)

## 第2章 位置と環境

**1. 遺跡の位置** 石川県は本州のほぼ中央にあって、日本海に突き出た能登半島を擁する。能登半島の北半は岩場が多くを占めるが、南半は、九頭竜川や手取川等の大河川からの流出土砂によって形成された砂丘が発達している。金沢市は半島南半にあって、東は白山から連なる海拔1,500m前後の山地が、西は平野が開け、海岸線には砂丘が横たわっている。遺跡は金沢市街地西方にあって、日本海からの距離は約1.5km。北方には市2大河川の一つ犀川が大きく蛇行し、南方から北流してきた安原川は遺跡近くで砂丘沿いに流れを変え、犀川に合流する。遺跡はこれら河川により形成された後背湿地中の微高地上に立地したものとみられる。

**2. 遺跡の環境** 遺跡密集地として知られる金沢市西部域にあって本遺跡周辺は比較的分布密度の薄い地域である。その要因として、河口近くにきて大きく蛇行した犀川の氾濫原として生活に適さない低湿地が広がっていたことが推測される。だが、一歩離れると犀川による肥沃な扇状地として開発が進められ、多くの遺跡が知られている。現代においても市街区域として開発が伸張し、その結果、多数の発掘調査が実施され各時代の様相が明らかにされている地域である。個別内容は各発掘調査報告書によるとして、ここでは、犀川を軸に右岸域と左岸域に分け各時代の遺跡分布状況を概観することで、本遺跡周辺の環境を考えていく一助としたい。

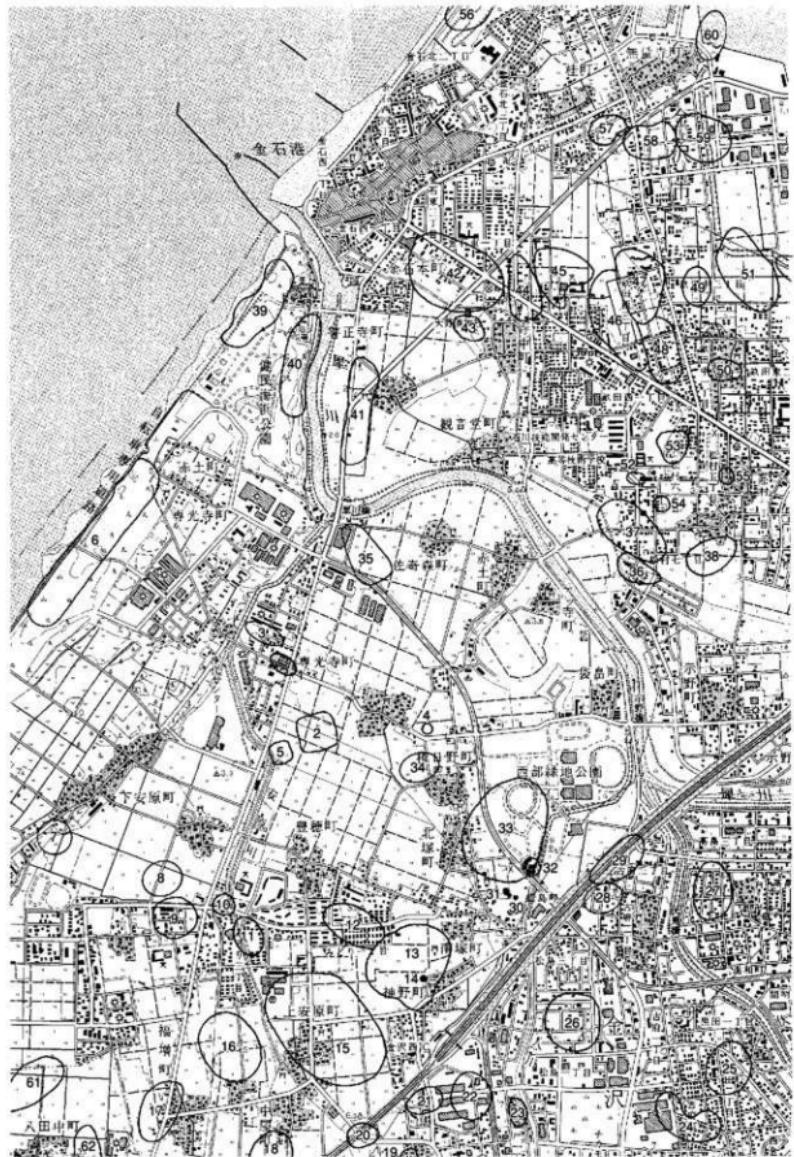
**縄文時代** 右岸では45寺中B遺跡を頂点とし、47畠田遺跡、37松村A遺跡、38松村B遺跡にかけて分布する。左岸では、39普正寺番屋砂丘遺跡が単独に位置し、33北塚遺跡、34稚日野遺跡を頂点とし13南塚遺跡が中位に、南は15上安原遺跡、18中屋遺跡、23森戸本町遺跡、24古府遺跡にかけて分布域を広げる。遺跡分布は右岸・左岸部とも現流路に沿うが、海浜域や右岸部の進出は局所的である。

**弥生時代** 右岸では頂点はやや西に広がり42金石本町遺跡とし、37、38から57桂遺跡、60無量寺金沢港遺跡まで広がる。左岸でもやや離れるが35佐奇森遺跡、1専光寺養魚場遺跡を頂点とし、中位で8安原工業団地B遺跡、9安原工業団地A遺跡、10緑園地下水処理場遺跡、12上安原緑園地遺跡、33北塚遺跡が、そして南は62八田中ヒエモンダ遺跡から20上安原陸橋遺跡、21矢木ジワリ遺跡、27高畠遺跡まで分布を広げている。遺跡分布は河口の普正寺町、観音堂町、赤土町では認められず、専光寺町周辺のものは局所的な立地とみられ、主体は北塚町、豊穂町辺りまでである。

**古墳時代** 右岸では犀川に接する41普正寺高畠遺跡を頂点とし、東は37から57、58無量寺B遺跡、59無量寺遺跡、60無量寺金沢港遺跡までと最も広範囲の遺跡分布をみせる。左岸は1、3専光寺染色園地遺跡を頂点とし、幅をやや狭め、中位に11緑園地公園遺跡、12、34を、南は20、21、22森戸バイパス遺跡、27までである。また、扇の要に位置するよう30おまる塚古墳、31宇佐神社古墳、32北塚古墳群が密集して築かれる。遺跡分布は現流路に沿って幅約1kmの空白地を残すが、海岸部を除き全域に認められる。



第3図 遺跡の位置



第4図 周辺の遺跡 (S=1/25,000)

No	遺跡番号	道 路 名	所 在 地	時 代	No	道 路 名	所 在 地	時 代	
1	01092	専光寺糞魚場遺跡	金沢市専光寺町	古墳～平安	32	01087	北塚古墳群	金沢市北塚町	古墳
2	01091	吉藤専光寺跡	金沢市専光寺町	室町	33	01088	北塚遺跡	金沢市北塚町	義文～平安・中世
3	01093	専光寺染色畠地道路	金沢市専光寺町	古墳	34	01089	碓臼野道路	金沢市碓臼野町	繩文・古墳
4	01090	御船前道路	金沢市専光寺町	不詳	35	01094	佐寄森遺跡	金沢市佐寄森町	弥生・平安～近世
5	~	豊穣道路	金沢市豊穣町	平安・中世	36	01095	松村どのまえ道路	金沢市松村	弥生中期
6	01038	専光寺海岸道路	金沢市専光寺町	奈良・平安	37	01096	松村A道路	金沢市松村	繩文・古墳・中世
7	01039	下安原遺跡	金沢市下安原町	義文・古墳・中世・近世	38	01097	松村B道路	金沢市松村	繩文・弥生・江戸
8	01040	安原工業団地B道路	金沢市下安原町	弥生～平安	39	01253	普正寺香屋砂丘道路	金沢市普正寺町	繩文・奈良・平安
9	01041	安原工業団地A道路	金沢市福端町	弥生・平安	40	01254	普正寺遺跡	金沢市普正寺町	鎌倉・室町
10	01042	緑園地下水処理場道路	金沢市中屋町	弥生・室町	41	01255	普正寺高島道路	金沢市普正寺町	古墳後期・鎌倉
11	01043	緑園地公園道路	金沢市上安原町	古墳・平安	42	01256	金石本町道路	金沢市金石本町	弥生～平安
12	01044	上安原緑園地道路	金沢市上安原町	弥生・古墳	43	01257	寺中御台場道路	金沢市寺中町	江戸
13	01045	南塙道路	金沢市南塙町	繩文・古墳	44	01258	寺中遺跡	金沢市寺中町	弥生中葉・後期
14	01046	びわ塙古墳	金沢市南塙町	古墳	45	01259	寺中B道路	金沢市寺中町	繩文晚期～平安
15	01047	上安原遺跡	金沢市上安原町	繩文古墳～平安	46	01260	畝田・寺中道路	金沢市畝田西	古墳～中世
16	01048	中屋ヘシタ道路	金沢市中屋町	奈良～中世	47	01261	畝田道路	金沢市畝田	繩文晚期～平安
17	01049	福端道路	金沢市福端町	不詳	48	01262	畝田大徳川道路	金沢市畝田	奈良～室町
18	01050	中屋道路	金沢市中屋町	繩文晚期	49	01263	畝田B道路	金沢市畝田	弥生～平安
19	01057	矢木ヒガシウラ道路	金沢市矢木	弥生・古墳	50	01264	畝田御台場跡	金沢市畝田	江戸
20	01058	上安原陸橋道路	金沢市上安原町	弥生・古墳	51	01265	畝田C道路	金沢市畝田	弥生～平安
21	01059	矢木ジワリ道路	金沢市矢木	弥生・古墳	52	01268	観音堂遺跡	金沢市觀音堂町	不詳
22	01060	森戸バイパス道路	金沢市森戸	古墳	53	01269	松村西の城道路	金沢市松村	古墳・平安
23	01061	森戸本町道路	金沢市森戸	繩文	54	01270	松村平田遺跡	金沢市松村	弥生中期
24	01078	古府遺跡	金沢市古府	繩文中期	55	01271	松村寺の前道路	金沢市松村	室町
25	01080	黒田町遺跡	金沢市黒田	平安	56	01277	金石北遺跡	金沢市金石北	不詳
26	01081	松島カオサ遺跡	金沢市松島	平安～中世	57	01278	桂遺跡	金沢市桂町	弥生・古墳・中世
27	01082	高畠遺跡	金沢市高畠	弥生・古墳	58	01279	無量寺B道路	金沢市無量寺	古墳
28	01083	古府B道路	金沢市古府	不詳	59	01280	無量寺道路	金沢市無量寺	古墳・中世
29	01084	古府クルビ道路	金沢市古府	弥生～平安	60	01281	無量寺金沢港遺跡	金沢市無量寺	繩文～古墳
30	01085	おまる塚古墳	金沢市北塚町	古墳	61	08129	八田中村道路	白山市八田中村	近世
31	01086	宇佐神社古墳	金沢市北塚町	古墳	62	08130	八田中ヒエモンダ道路	白山市八田中村	繩文・弥生・中世

第1表 周辺の遺跡一覧表

**奈良・平安時代** 右岸は犀川沿いが希薄となり、左岸に位置するが39を頂点とし、42、45～47、48畝田大徳川遺跡、49畝田B遺跡、50、51畝田C遺跡、53松村西の城道路と細長い分布を示す。左岸は古墳時代と同様の分布状況であるが、犀川沿いの35を頂点とし、中位は8、9、11、15、16中屋ヘシタ遺跡から29、33まで、南は幅を若干狭めており、東端を29とする。遺跡分布は、右岸は畝田～普正寺町ラインへ幅を狭め、左岸は下安原町周辺で薄いが、古墳時代と同様である。

**中世以降** 右岸は、左岸にあたるが40普正寺遺跡を頂点とし、北は57、59から南は35、37までと古墳時代と同様再び広範囲の分布となる。左岸も右岸と同様広範囲の分布をなし、35を頂点とし、1に近接しては2吉藤専光寺跡が存在する。西は7下安原遺跡、61八田中村遺跡まで広がる。ただし、東は26松島カオサ遺跡、33までとなる。遺跡分布は、右岸は再び拡大し古墳時代と同様、左岸は伏見川流域の黒田、古府町が希薄となるが、海岸部へは古墳時代と同様の分布を回復する

## 第3章 調査の成果

### 第1節 概要

専光寺養魚場遺跡は平成3年(1991)、金沢市教育委員会により隣接地で発掘調査が行われており、良好な一括資料の出土から、弥生時代各期の遺跡が分布する当地にあって、中期後葉を代表する遺跡の一つとされている。

#### 1. 調査区の設定(第2・5図)

発掘調査区域は既存県道を拡幅して新設される歩道部分にある。調査時は県道から約1m下がった水田域であり、上述の金沢市教育委員会調査区域の約10m東にあたる。調査範囲は南端で幅4m、北端にかけて先ずはまりとなり、延長27mを測る。南北に細長い調査区は南西端に任意の起点をおき、10m毎に区切りそれぞれ1～3区と呼称した。

#### 2. 基本層序(第6～8図)

調査区域は大方の箇所で地山まで削平を受けており、1：水田耕作土(暗褐色粘質土、厚さ約20cm)、2：客土(灰褐色シルト質土、厚さ約5cm)を取り除くと淡黄褐色粘質の地山土となる。地山面標高3.73m。黒褐色粘質の遺物包含層は、1区北半のSK03周囲でわずかに1～3cm残るのみであった。

#### 3. 遺構・遺物(第5図)

SK(土坑)5基、SD(溝)8条、ピット10数個を検出した。うちSK01は井戸跡の可能性がある。溝のうちSD05は平地式住居周溝の可能性があり、その周囲に分布するピット群は、平地式住居あるいは掘立柱建物柱穴の可能性がある。遺物は、金沢市教育委員会調査時と同時期の弥生時代中期後葉の土器等がパンケース3箱分出土したほか、ピットからは柱根が3本出土した。

### 第2節 検出遺構・遺物

#### SK01(第8図)

3区北端に位置し、調査区西壁に接する。検出面で隅丸長方形をなし短辺70cm以上、長辺160cm以上。深さ約70cm。肩より約20cm内側から傾斜を強めるが、ここで一辺約100cmの方形をなす。この方形部では一角に杭状に木片がささり、東辺に沿っては長さ



第5図 調査区全体図(S=1/100)

35cm、幅2cmの棒状の木片が遺存していた。掘削時には50cmほど掘り下げるところで湧水がはじまつてあり、断面丸みを帯びた底面に堆積する7層（腐植物を多く含む茶褐色粘質土）からみても、本遺構は素堀井戸の可能性がある。遺物は4~6層で土器小片が出土しており、そのうち櫛描直線文・波状文が施される8の壺肩部を図化した。

#### S K02（第8図）

3区北半に位置し、調査区西壁に接する。SK01を切り、長径120cm以上、短径90cmの不整楕円形の土坑。深さ約10cmと浅く、土器数点が出土した。

#### S K03（第7図）

1区北半に位置し、調査区東壁に接する。長径280cm以上の不定形土坑として掘削したが、断面観察から、南半に長径約90cm、深さ約20cmの土坑が先に存在し、のちに北側に一回り大きい長径250cm以上、深さ約20cmの土坑が設けられたことがうかがわれる。いずれも浅い椀状を呈する。遺物は土器細片がパンケース約1/4箱出土し、そのうち10~12を図化した。10の壺は口唇部外面に深い刻みを加え、12の壺は外反する口縁部内面に、口唇に沿っては斜位刺突がめぐり、その内側には部分的に輪み目様に刺突を加える。

#### S K04（第7図）

1区北半に位置し、SD06に切られる。長径136cm、短径約70cm、深さ56cmの不整楕円形土坑。北西側がやや凹みピットが重複したともみられる。底部付近の灰褐色シルト質土は腐植物を多く含み、底部に堆積する淡褐色シルトはよくしまる。底に至るまで散発的に遺物が出土しており、13・14を図化した。四線文系の壺13は短く外傾する口縁部を持ち、口唇部を内外に伸張し、外面に3条の四線をめぐらす。凝灰岩製の14は磨石あるいは台石片であり、摩耗する表面は部分的に被熱する。

#### S K05（第6図）

1区北半に位置し、調査区西壁に接する。長径100cm以上、短径85cm、深さ20cmの楕円形を呈する。覆土は灰黄色砂であり、SD06~08と同様、後世の遺構とみられる。

#### S D01（第8図）

3区に位置する長さ30cm以上、幅40cm、深さ8cmを測る。覆土は褐色粘質土。土器小片を出土した。

#### S D02（第8図）

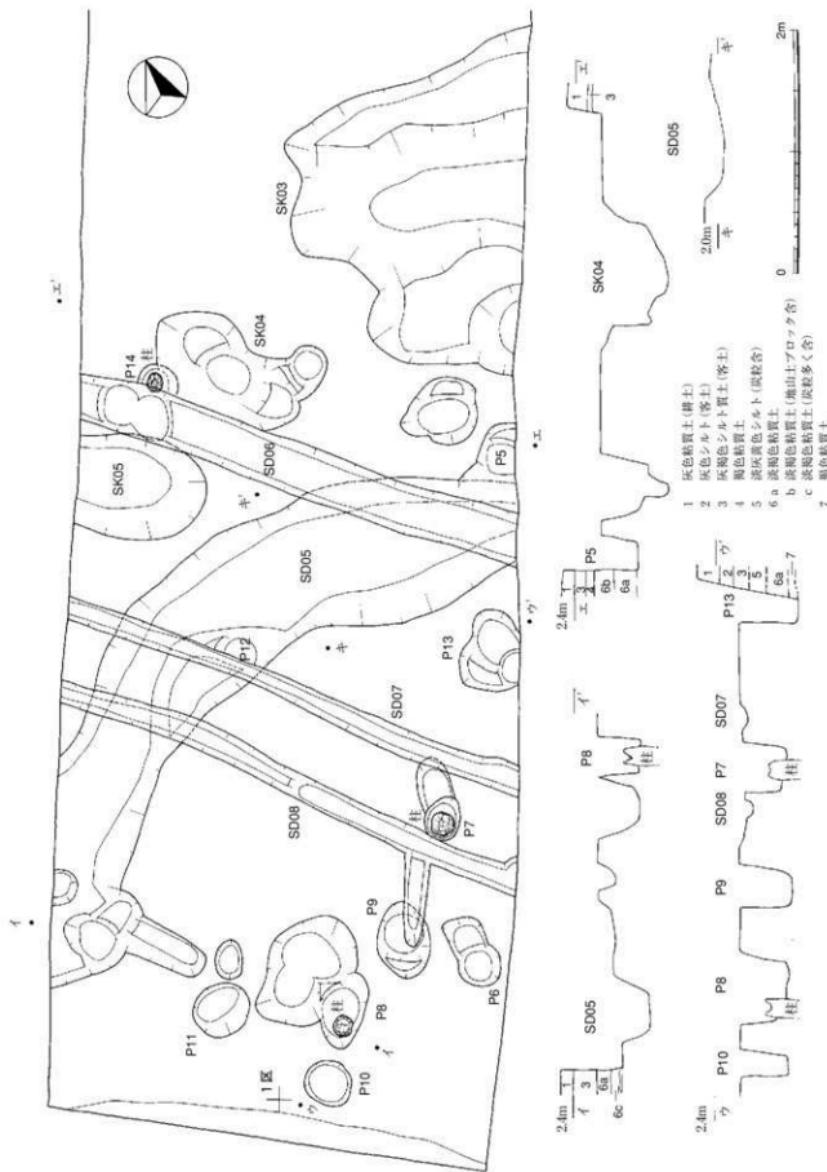
3区南半に位置し、西壁に接する。西壁部で幅約280cm、東壁部で幅50cm、深さは10cm前後を測る。15の無茎三角形石鐵片の他に中・近世の陶磁器が出土した。断面からみて隣接するSK02やP3より新しく、覆土は耕作土下の客土と同一のもので、後世の溝あるいは凹みとみられる。

#### S D04（第7図）

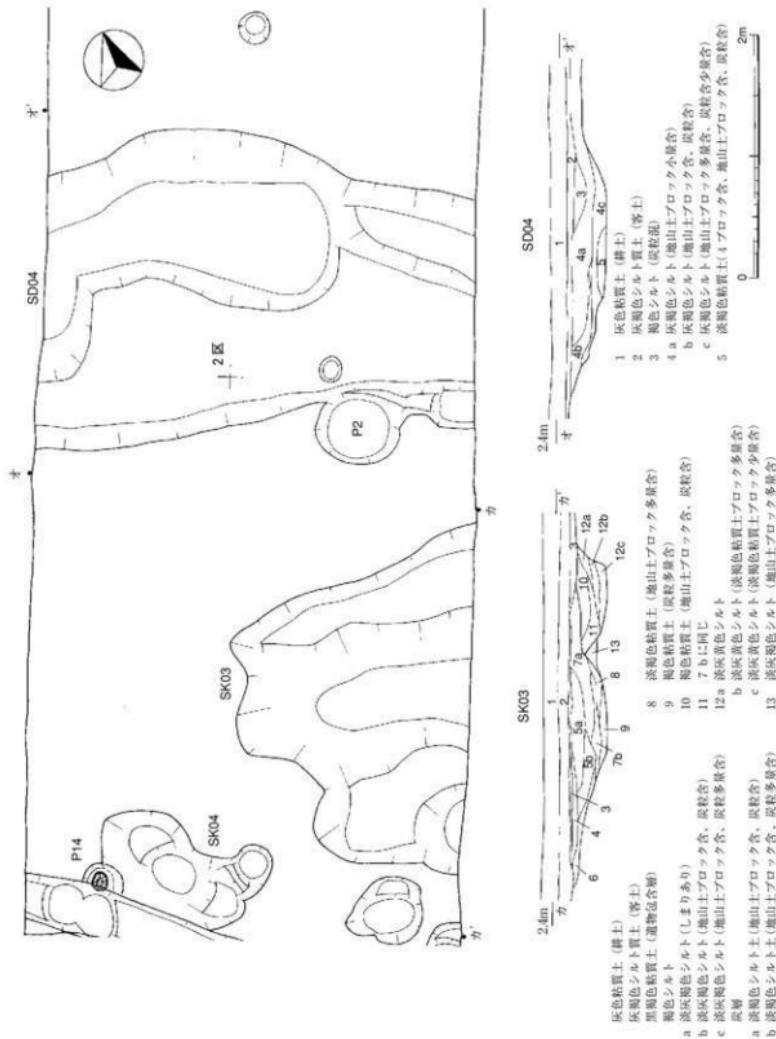
2区杭周囲で調査区を横断する。西壁部で幅220cm、浅い皿状の断面形を呈し深さ20cmを測る。パンケース1箱弱の遺物は東壁を起点に120cmごとに1~3区に細分割し取り上げ、16~21を図化した。16の壺は口縁部に直径3mmの円孔が穿たれ、17は薄い凸帯上に斜格子を刻む。18は櫛描直線文・波状文を加える。19の高坏脚部は赤彩され四線がめぐる。21の鉢は口唇部および無文化した口縁部に刺突を加える。

#### S D05（第6図）

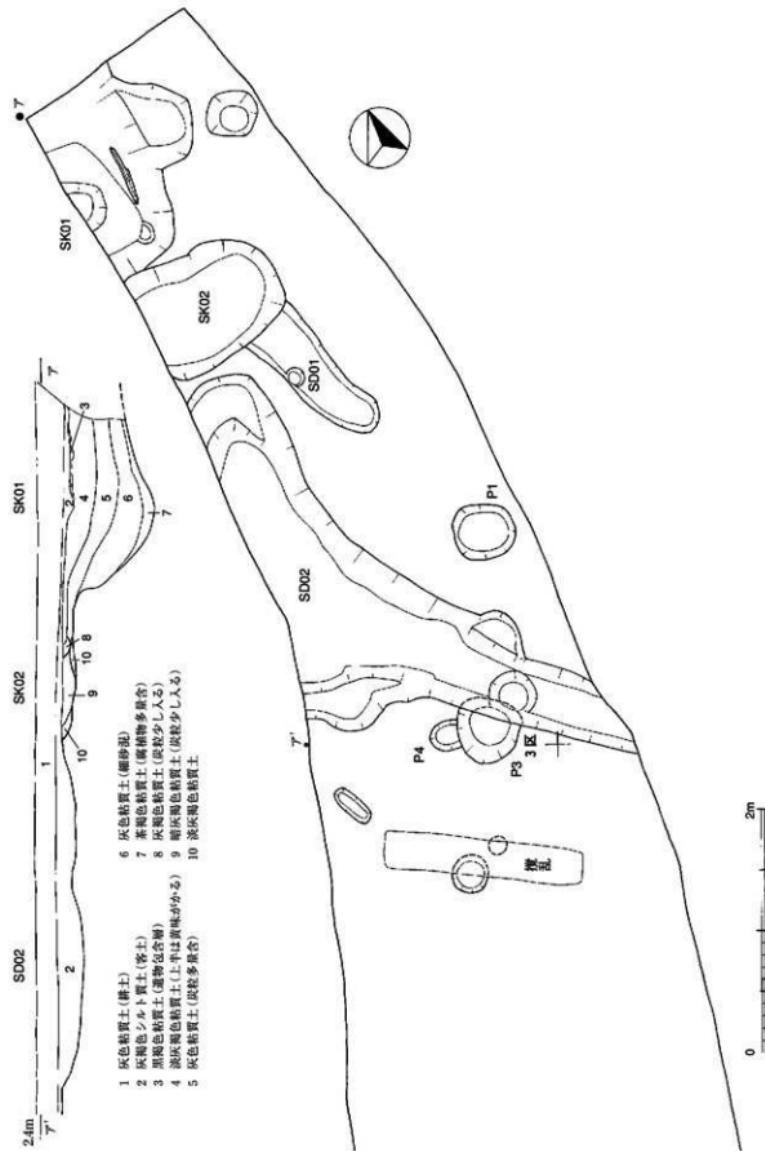
1区に位置する。幅80~120cm、深さ20cm前後。調査区内では弧であるが、全周するとすればP6辺りを中心とし、溝内法で直径約6.4mとなる。やや小型の部類であろうが、平地式住居外周溝の可能性を考慮したい。遺物は、中程を横断するSD07により東西に二分し取り上げ、パンケース0.5箱の遺物の内、22~27を図化した。24は底部を欠くほかは全形がうかがえるものである。口唇部はわずかに



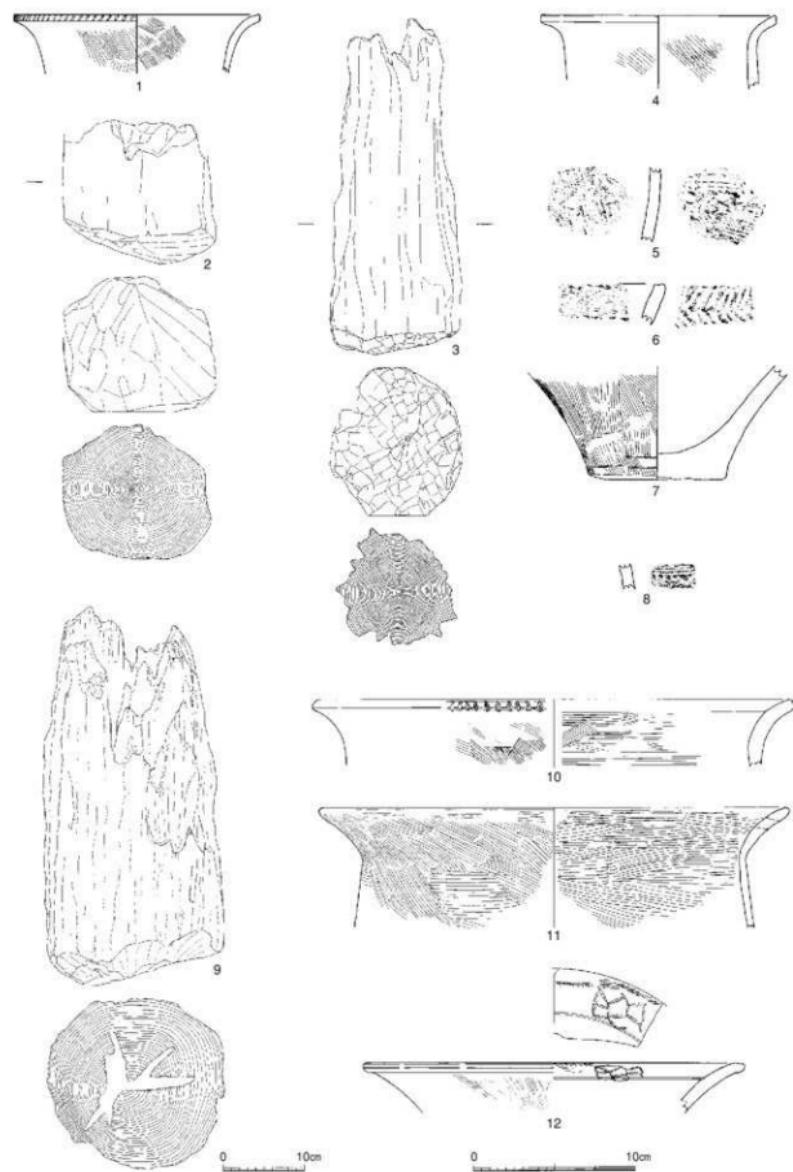
第6図 1区造構平・断面図 (S=1/40)



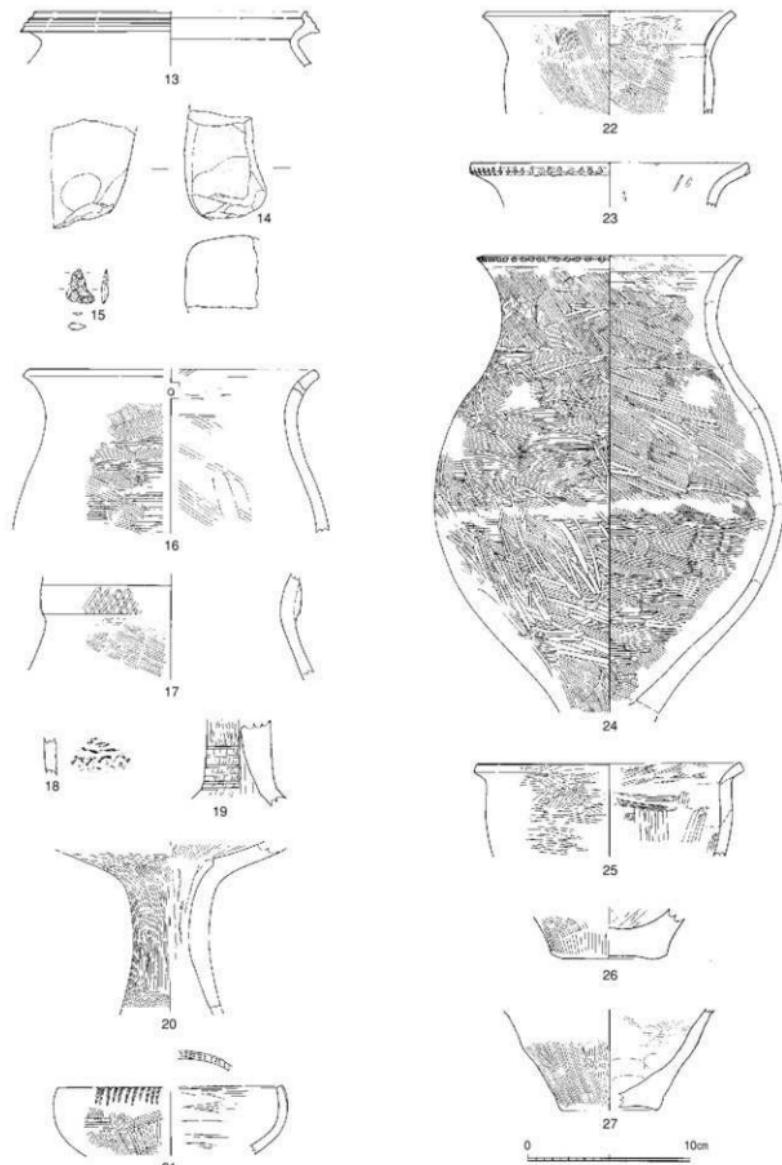
第7図 1区南半～2区北半造構平・断面図 (S=1/40)



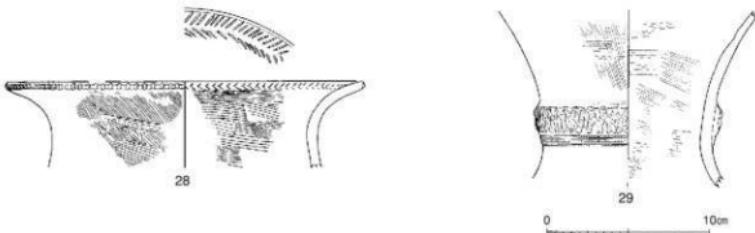
第8図 2区北半～3区造構平・断面図 (S = 1/40)



第9図 出土遺物1(ビット、SK)



第10図 出土遺物 2 (SK, SD)



第11図 出土遺物3(分布調査時出土)

外傾する面をなし、端に刻みを加える。器内外ともハケメを加え、口縁部内面はナテ調整し、中膨らみする体部外面にはミガキを、上半は所々に弱く、下半は全面に強く加えハケメが消える部分が多い。25の鉢は丁寧にミガキを施す。

#### S D 06~08 (第6図)

1区に位置する。いずれも北西から南東方向に伸び、S D06は幅40cm、深さ約20cm、S D07・08は幅20cm、深さ約5cm。覆土はいずれも灰黄褐色シルト質土であり、S D07・08は小砂利を含む。S D02と同じく耕土直下から掘り込まれており明らかに弥生時代の遺構とは異なる。時期は不詳だが、一帯が削平され客土が行われた時点をそう巡らない時期の所産であろう。

#### ピット(第6図)

1区では、柱根を遺存したP 7・8・14のほかP 5・9・13、P 5西側に位置するピット、SK04あるいはS D06北西端に位置するピットなどは、壁の立ち上がりが垂直に近く明瞭な掘り方を持つことから柱穴の可能性が高い。P 8からP 13あるいはP 5へは直線的な配置にあり掘立柱建物の存在が推測される。さらに、S D05については平地式住居外周溝ともみられ、その内部のP 7・8は位置的に適当である。ただ、限定された調査区のため全容をうかがうことは困難であり、ここでは可能性を指摘するにとどめたい。P 7出土の柱根2は最大径18.8cm、残存長17.6cm、樹種はツバキ属、P 8出土の柱根3は最大径16.3cm、残存長41.0cm、樹種はカエデ属である。また、P 14出土の9は最大径22.3cm、残存長46.0cm、樹種はコナラ属である。P 12出土の5は外面に押引き平行線、雑な斜行短線、網状具の回転押捺を、6は綾杉状刺突を加える。7の底部はS D05出土品と接合している。

28・29は分布調査時のものである。28の壺は口縁部内面に綾杉状刺突を加える。29の壺は貼り付け凸帯に斜格子刺突を加え、凸帯下には横位に刺突を繰り返すことで平行線3条を描く。

### 第3節 ま と め

調査の結果、浅く不定形をなすSK02・03などは金沢市教育委員会検出土坑群と一連の遺構とみられ、SK03、SD04・05などから多量に出土した土器についても同時期としてよく、弥生時代中期後葉、櫛描文系土器は盛期を過ぎ、凹線文形土器が定着にむかう段階に位置付けられよう。分布調査結果から、調査区域は低湿地部に面した遺跡南東端にあたるとみられるが、今回、掘立柱建物あるいは平地式住居に伴うとみられる柱根や、未確定であるが井戸跡も確認されたことで、一帯には、地山に至るまで削平を受けながらも、なお濃密に集落跡の残る可能性が示されたといえよう。

報告番号	遺物種類	機器種類	口径(cm) 底径(cm)	色調(内) 色調(外)		胎土	焼成	調整(内) 調整(外)		口 部 底 部	備考	国化番号
				赤	白			黒	青			
1	P 4 弥生土器	壺	15.0	純い黄 純い橙	微 微	-	-	並	ハケ ハケ	1 -	胎土精良	A12
2	P 7 木製品	柱根									樹種ツバキ属、残存長17.6cm、 最大径18.8cm	木2
3	P 8 木製品	柱根									樹種カエデ属、残存長41.0cm、 最大径16.3cm	木3
4	P 11 弥生土器	甕	14.4	純い黄 純い黄 純い橙	並 微	-	-	良	ハケのちナデ、ハケ ハケのちナデ、ナデ	1 -		A16
5	P 12 弥生土器	壺?		純い黄 浅黄 黄	小 微	微	-	並	ハケ ハケ	- -		D2
6	P 12 弥生土器	壺		浅黄 浅黄 黄	微	微	-	並	ハケ ナデ	- -		D1
7	P 12 - S D05 (東区) 弥生土器 (底部)		8.5	黄灰 灰黄	多	並	小	含	摩耗により不明	12 -		A15
8	S K01 弥生土器	壺		浅黄 浅黄 純い橙	微	-	-	並	摩耗により不明	-		D3
9	P 14 木製品	柱根									樹種コナラ属、残存長46.0cm、 最大径22.3cm	木1
10	S K03 弥生土器	甕	(29.0)	純い黄 純い黄 純い橙	並	小	-	-	ハケ ハケのちナデ、ハケ	1 -	外面スス付着	A17
11	S K03 弥生土器	甕	28.6	純い橙 淡褐	並	小	-	-	ハケ ナデ、ハケ	3 -	外面スス付着	A18
12	S K03 弥生土器	壺	23.6	純い橙 純い橙	小	無	1	含	ナデ ナデ、ハケ	1 -	外面赤彩	A19
13	S K04 弥生土器	甕	18.6	浅黄 純い橙	小	無	-	-	ナデ ナデ	1 -	外面スス付着	A10
14	S K04 石製品	磨・石核	(6.7) (5.0)								厚さ5.2cm、重量 (239.9g)	石2
15	S D02 石製品	石礫	長2.1 幅(2.1)								厚さ0.4cm、重量 (0.9g)	石1
16	S D04 (1区) 弥生土器	壺	17.6	灰 灰	並	微	-	-	ハケのち弱いナデ ハケのちナデ、ハケ	1 -	口縁部外面補修孔あり。 外面スス付着	A9
17	S D04 (3区) 弥生土器	壺	灰黄 黑褐	微	-	-	-	並	ナデ ナデ、ハケ	- -	頭部径6.5cm、外面スス付着	A8
18	S D04 (1区) 弥生土器	甕	浅黄 浅黄 灰	微	微	無	含	並	摩耗により不明 しほり	- -		D4
19	S D04 (1区) 弥生土器	壺	灰 灰	並	微	-	-	並	ミガキ ミガキ	- -	外面赤彩、脚部径5.3cm	A11
20	S D04 (3区) 弥生土器	壺	純い黄 純い黄 灰	多	微	-	含	並	ミガキ、ハケ ミガキ、ハケ	- -	脚部径5.8cm	A6
21	S D04 (3区) 弥生土器	鉢	(13.7)	褐灰 褐灰	並	小	-	含	ハケのちナデ ナデ、ハケ	1 -		A7
22	S D05 (西区) 弥生土器	壺	15.0	純い褐 黑	小	微	-	-	ハケ ハケ	2 -	外面スス付着、頸部内面指痕 痕あり	A4
23	S D05 (西区) 弥生土器	甕	17.0	純い黄 純い黄	並	微	-	含	摩耗により不明 摩耗により不明	2 -		A5
24	S D05 (東区) 弥生土器	壺	15.3	燈 燈	並	小	-	含	ハケ、ナデ、ナデ ハケ、ミガキ、ナデ	8 -		A1
25	S D05 (東区) 弥生土器	鉢	16.2	純い黄 灰黄	小	-	-	含	ハケのちミガキ、ハケ、ミガキ ハケ、ハケのちミガキ	1 -		A2
26	S D05 (東区) 弥生土器	甕	7.2	浅黄 浅黄 灰黄	小	微	-	含	ナデ、ケズリ ハケ	- 3		A3
27	S D05 (東区) 弥生土器 (底部)		5.8	灰黄 灰黄 黃	並	-	-	含	ハケのちナデ ハケ	- 6	外面スス付着	A20
28	分布調査時出土 弥生土器	甕	21.8	純い褐 純い褐	並	小	含	含	ハケ ハケ	1 -	外面スス付着	A13
29	分布調査時出土 弥生土器	甕		純い黄 淡赤	小	微	-	-	ハケ ハケ	- -	頸部径10.4cm	A14

第2表 出土遺物觀察表



遺跡遠景（南から）



遺跡遠景（南東から）



調査着手前の状況（南西から）



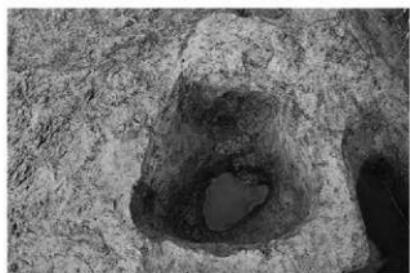
遺構検出状況（南西から）



完掘状況（全景、南西から）



1区発掘状況（南西から）



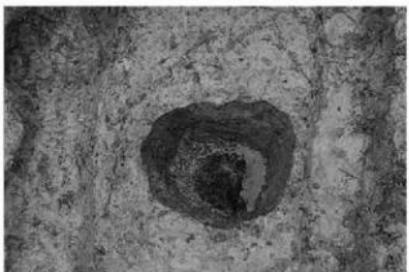
P 5 発掘状況（南西から）



P 7 柱根（西から）



P 8 柱根（北西から）



P 14 柱根（南東から）



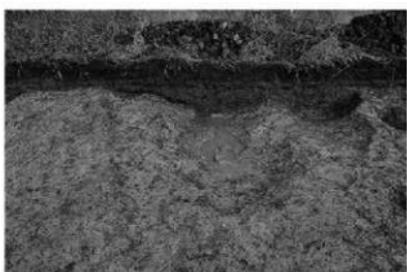
3区完掘状況（南から）



S K 01・02、S D 01完掘状況（東から）



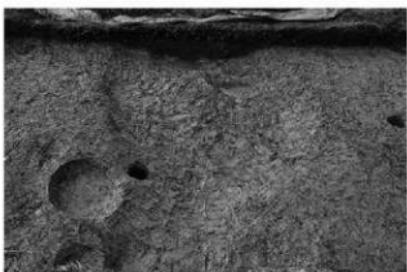
S K 01断面（東から）



S K 03完掘状況（西から）



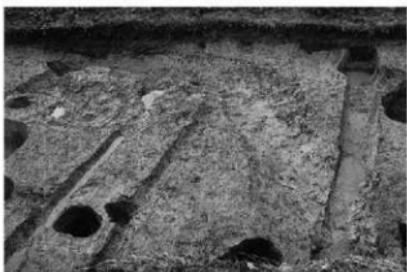
S K 03断面（西から）



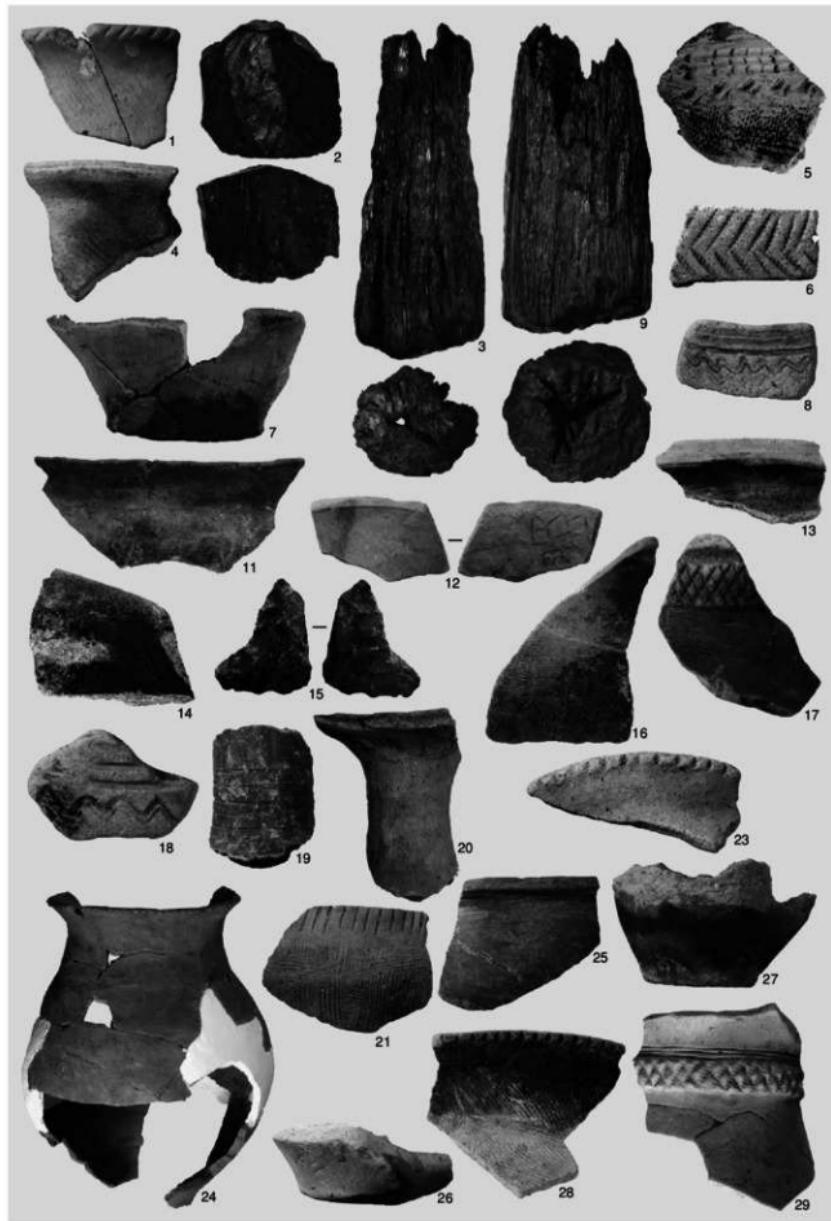
S D 04完掘状況（南東から）



S D 04断面（南東から）



S D 05完掘状況（南東から）



## 報告書抄録

ふりがな	かなざわし せんこうじょうぎょじょういせき						
書名	金沢市 専光寺養魚場遺跡						
副書名	県単道路改良事業主要地方道松任宇ノ気線に係る埋蔵文化財発掘調査報告書						
卷次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	澤辺利明						
編集機関	財団法人 石川県埋蔵文化財センター						
所在地	〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1 (TEL 076-229-4477)						
発行機関	石川県教育委員会・財団法人 石川県埋蔵文化財センター						
発行年月日	2006年3月31日						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
せんこうじょうぎょじょう 専光寺養魚場 いせき 遺跡	いしかわけん かなざわし 石川県金沢市 せんこうじょう 専光寺町	172014	36度 34分 13秒	136度 35分 13秒	20031114 ↓ 20031203	170m <sup>2</sup>	道路工事 (主要地方道 松任宇ノ気線)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
専光寺養魚場 遺跡	集落跡	弥生時代中期	土坑、溝、柱穴	弥生土器、柱根、 石礫			
要約	北陸において弥生時代中期後葉を代表する遺跡の一つである。隣接地を金沢市教育委員会が発掘調査しており、今回、掘立柱建物あるいは平地式住居に伴うとみられる柱根や井戸様の土坑が検出されたことから、一帯には、削平を受けながらも濃密に集落跡が分布する可能性が示された。						

### 金沢市 専光寺養魚場遺跡

発行日 平成18(2006)年3月31日  
 発行者 石川県教育委員会  
 〒920-8575 石川県金沢市鞍月1丁目1番地  
 電話 076-225-1842 (文化財課)  
 財団法人 石川県埋蔵文化財センター  
 〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1  
 電話 076-229-4477  
 E-mail address mail@ishikawa-maibun.or.jp  
 印刷 ハヤシ印刷紙工株式会社